

2024年4月入学岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【2月募集】入学試験問題

講座（学修分野）	国際比較経済（グローバル経営・経済）、 経済理論・統計、政策科学、経営学
専門科目	マクロ経済学

以下の問1、問2の両方に解答しなさい。なお、問1は解答用紙の第1ページと第2ページに解答し、問2は解答用紙の第3ページと第4ページに解答しなさい。

問1 「良いインフレーション」と「悪いインフレーション」について説明しなさい。

問2 (1)から(4)のすべての設問に解答しなさい。開放経済体系のIS-LMモデルを考える。財市場の均衡条件は次のように表される。

$$Y=C(Y)+I(r)+G+X(e, Y)$$

ここで、 Y ：国民所得、 C ：消費、 I ：民間投資、 r ：自国の利子率、 G ：政府支出、 X ：貿易収支の黒字幅（＝純輸出：輸出－輸入）、 e ：（邦貨建て）為替レート（1ドル＝ e 円）とする。また、次の（偏）微分に関する条件を満たすものとする。すなわち、

$$0 < C'(Y) < 1, \quad I'(r) < 0, \quad \partial X(e, Y) / \partial e > 0, \quad \partial X(e, Y) / \partial Y < 0$$

貨幣市場の均衡条件は次のように表される。

$$M=L(Y, r)$$

ここで、 M ：貨幣供給、 L ：貨幣需要とする。また、次の偏微分に関する条件を満たすものとする。すなわち、

$$\partial L(Y, r) / \partial Y > 0, \quad \partial L(Y, r) / \partial r < 0$$

さらに、資本市場が完全であると仮定し、資本移動による裁定行動の結果、自国の利子率は世界利子率 r^* に等しくなるものとする。

$$r=r^*$$

なお、ここでは小国のケースを仮定し、自国の利子率の水準は世界利子率の水準に影響を与えないものとする。

(1) 変動相場制度の下で、財政政策（政府支出の増加）は国民所得（ Y ）を増加させるか？ IS曲線とLM曲線のシフトの様子を図示し、財政政策の効果の過程について順を追って説明しなさい。

(2) 変動相場制度の下で、金融政策（貨幣供給の増加）は国民所得（ Y ）を増加させるか？ IS曲線とLM曲線のシフトの様子を図示し、金融政策の効果の過程について順を追って説明しなさい。

- (3) 変動相場制度の下で国民所得を増加させるためには、財政政策と金融政策とではどちらがより有効か？ 以上のモデル分析に基づいて説明しなさい。
- (4) 2013年4月に日本銀行が「量的・質的金融緩和」を導入して以降、日本では長期にわたって「金融緩和」政策が続けられている。この政策の主な長所2つと短所2つを挙げ、それぞれについて説明しなさい。

以上